

2020 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	佐伯 慈海
研究テーマ	常啼菩薩求法譚の研究
研究概要	<p>1. 『六度集経』の「常悲菩薩本生」と初期の般若経の常啼菩薩求法譚を、比較検証することで大乘仏教興起の様相を探る。</p> <p>2. 仏伝と常啼菩薩求法譚の対照表を作成する。その上で、この求法譚がどの部派の保有する仏伝を下敷きにしたかを探る。</p>

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>数年にわたり続けてきた『大般若波羅蜜多経（初会）』常啼菩薩求法譚冒頭部分の検証結果を研究ノートとしてまとめた。</p> <p>常啼菩薩求法譚と仏伝との照合を行う上で、特に注目しているのが常啼菩薩が東へ向かう理由である。</p> <p>仏伝では釈尊出家の際、向かった方向が東である。例えばマハーヴァストゥでは出家後ヴァイシャーリー（シャーキャ国からみて東にあたる）に到着している。また、望月信了氏が言うように西方における般若の信者がインドの北境ガンダーラへ向かって般若を求めた事実に基づいて東への求法が述べられた可能性もある。さらに、相応部経典 45「道相應」には善友を太陽が東にのぼる時、その先駆として、またその前相として、東の空に明るい相が生ずる様子に譬えている。常啼菩薩の善友（善知識）たる法上菩薩がいるのも東の捷陀越国（ガンダーラ）であるところから、原始経典の内容を踏まえて東への求法が成立した可能性も考えられる。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>研究ノート「『大般若波羅蜜多経（初会）』常啼菩薩求法譚冒頭部分の検証」</p> <p>『佛教大学総合研究所紀要』第 28 号、pp. 83-90、佛教大学総合研究所（2021 年 3 月、査読有）</p>
3. 今後の課題	<p>常啼菩薩の東への求法は、阿闍世国経との関係も視野に入れる必要があると考えている。</p>